

県の転入超過率 全国ワースト7

新型コロナウイルス禍が明けて人の動きが活発になる中、県の「転出超過」が拡大している。総務省によると、2023年に県外へ転出したのは3万6829人。県内に転入してきた人数を6397人上回り、転入超過率はマイナス0.37と転出超過を示した。

21年はコロナ禍でマイナス0.17まで改善したが、22年はマイナス0.26となり、23年はコロナ禍前の19年のマイナス0.35を上回る転出超過となった。

23年に転出超過となったのは40道府県。三重県は福島県、愛媛県、徳島県と並び全国ワースト7位タイだった。

転入超過率を男女別、年齢別に都道府県で比較すると、三重県では若者世代での転出超過が目立った。男性の20代後半と30代前半がワースト3位、30代後半は同1位だった。女性も20代後半が同10位、30代前半が同8位、30代後半が同9位といずれも不名誉な順位だ。最近、県内の中小企業から若者の確保に苦慮する声を聞くが、これを見ると納得できる。

全国で人手不足や賃上げが急速に進む中、より良い条件で働ける場を求め転出している可能性もある。若者世代の減少は地域にとって労働力の縮小に加え、婚姻や出生の減少も意味する。未来を支える若者世代が住み、働き続けたいと思える環境づくりが必要だ。

(地域調査部 主任研究員 谷ノ上千賀子)

2023年の 転入超過率 (ワースト)

1位	長崎県	-0.51
2位	青森県	-0.48
3位	福井県	-0.46
4位	広島県	-0.42
5位	岩手県	-0.40
6位	山形県	-0.38
7位	福島県	-0.37
◇	三重県	-0.37
◇	愛媛県	-0.37
◇	徳島県	-0.37

※マイナスは
転出超過を示す

※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む (百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2024年6月20日